

編集後記 西村俊

Editorial Postscript

Shun NISIMURA

新型コロナウイルス (COVID-19) の流行によって 3 年余に渡って続いた行動制限が遂に緩和され、世界中で人々の往来が再開されつつある。しかし、コロナ禍により生じた社会の急激な変化は必ずしも可逆ではなく、コロナ前とは異なる生活様式・社会性・価値観に沿った with/after コロナへの歩みへと向かっている。ロシアのウクライナ侵攻から丸 1 年が経ち、食料・資源・エネルギーに関連する国際情勢も大きく変化してきている。この戦争の先にある未来の姿を想像しながら、様々な国の思惑や事情が交錯する国際政治の姿から人間のしたたかさや多面性にも想いを巡らせている。それぞれの平穏な日常に大きな変化が生じたことが、これまでの持続可能性や社会の発展への歩みについて目を向けるきっかけとなることは多い。

しかし、平時にまだ感じえぬ関連性を想像し今の日常生活 (当たり前) が 誰か (何か) の大きな貢献 (あるいは犠牲) によって成り立っていることに想いを巡らせること

には難しさがある。特に、時間をかけて徐々に失われていく社会的機能には気づきにくく、身近な話題から遠いほど (スケール感が大きいほど) 危機感の持続性に限りがある。また、例えば都市的な生活を送りながら農山村の未来を憂うことは実際に農山村に移り住み伝承者となろうとする姿勢とは異なるため、その温度差を矛盾として葛藤に向かうこともある。しかし、そのような “不完全” を認識しながらそれぞれの立場での小さな貢献の積み重ねを続けることが、次の社会の基礎を築くためのより良い歩みへ繋がることへ希望を持ち続けたい。

情報化社会の中で、情報収集や繋がり形成にも様々なツールが開発されている。ChatGPT の登場により今後ますます AI 技術が台頭して行く時代の中で、新しい技術を “ツール” として取り入れ、どのように人と人を新たに繋ぐ仕組み作りに役立てられるのか。環境学習の実践もリアルとバーチャルを巧みに融合させた新しいスタイルへと歩んでいる。

民族植物学ノオト 第 16 号 (2023) ISSN 1880-3881

発行日： 2023 年 3 月 30 日

発行所： 特定非営利活動法人 自然文化誌研究会

発行責任者： 植物と人々の博物館 木俣美樹男、西村俊

所在地： 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

自然文化誌研究会

Ethnobotanical Notes No. 16 (2023) ISSN 1880-3881

edited by Mikio Kimata (Plants and People Museum)

The Institute of Natural and Cultural History, 3337-2 Kosuge,
Kitatsuru-gun, Yamanashi Prefecture, Japan 409-0211